



▲第10回町民ミュージカル



▲タクシー利用者補助金で通院



▲学校に図書館司書を配置（左：日野中学校の様子、右：黒坂小学校の様子）



▲若者向け町営住宅の建設

平成23年度 一般会計決算 まちの家計簿 2011

若者向け町営住宅やタクシー利用者補助事業、
保小中一貫教育や子育て支援など心豊かに暮らせるまちづくりに

31億8709万円を支出しました

▼平成23年度決算状況

元気があふれるために

歳入総額が34億3590万円、歳出総額が31億8709万円で、差引残額は2億481万円となりました。

地域活性化を図るために交付された『住民生活に光をそそぐ交付金』などを活用し、橋や町道、学校施設を修繕したほか、県支出金の『緊急雇用創出事業補助金』を活用し、町道の維持管理など雇用創出に努めました。

また、町債のうち過疎対策事業債の活用で、タクシー利用者補助事業を運営。認定者は約300人に達し、病院受診や買い物など多くの皆さんの生活交通の確保が図られました。

さらに、若者定住対策として、单身者向けのワンルーム住宅4戸を根雨に建設。対象を町外からの転入希望者としたところ、町内事業所で働く人が入居し、現在満室となっています。

次代を担う子どもたちの教育・子育て支援として、保小中一貫教育の推進や学校地域支援本部、放課後子ども教室

や子育て支援室「おひさまひろば」の充実を図ったり、図書館司書を保育所と各学校に配置し、図書館の積極的な活用を進めました。効果として、町図書館と連携し新刊を充実させるなどの環境整備、子どもたちへ本の紹介、読み聞かせなど本に親しむ機会の提供、教員が授業で活用する資料の提供などが図られ、授業や休憩時間に学校図書館の利用が増えています。

福祉では、高齢者宅を訪問する高齢者ふれあい見守り事業に取り組み、専任職員が独り暮らしや高齢者のみで暮らす家庭に訪問。地域で安心した生活が続けられるよう、相談・聞き取りなどを行いました。

地域活性化として、元気なまちづくり交付金を継続。まつりやアユつかみ、自治会の催しなど、地域資源を生かした取り組みが行われ、地域に元気があふれました。そのほか、有害鳥獣対策や新規就農支援など産業振興にも取り組み、町民の皆さんが生き生きと、心豊かに暮らせるまちづくりに努めました。

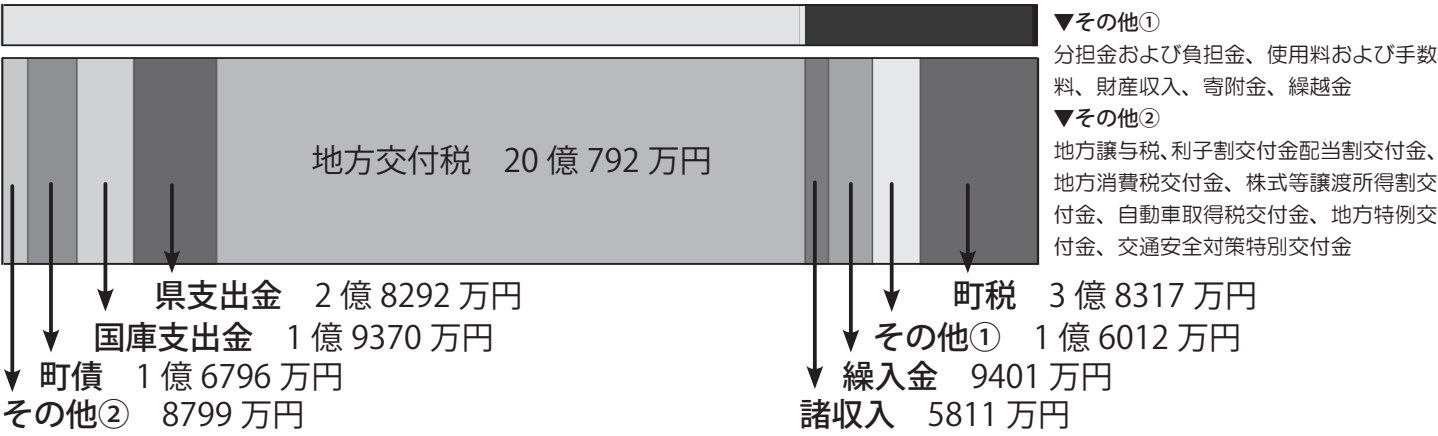
平成 23 年度は 2 億 4881 万円の黒字に

うち、1 億 5000 万円を財政調整基金（積立金）に繰り入れました。

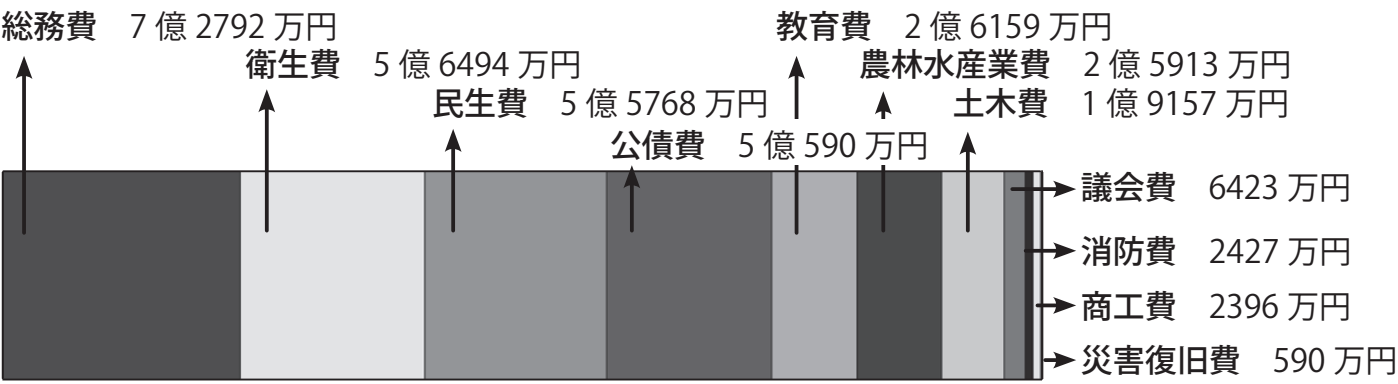
一般会計歳入総額 34 億 3590 万円

依存財源 79.8% 27 億 4049 万円

自主財源 20.2% 6 億 9541 万円



一般会計歳出総額 31 億 8709 万円



▼一般会計《歳入》
依然、厳しい状況
平成23年度一般会計の歳入総額は、前年度と比べ約3・5割減の約34億3590万円となりました。町税などの自主財源が6億9541万円（前年度比約11・6割増）で全体の20・2割、地方交付税など依存財源が27億4049万円（前年度比約7割減）で全体の79・8割でした。
歳入全体に占める割合で見ると、国から交付される地方交付税が最も大きく、総額20億7922万円で歳入の58・4割と大きな割合を占めています。続いて、町の皆さんから納付いただいています町民税、固定資産税、軽自動車税などの町税が3億8317万円で約11・2割、県支出金が2億8292万円で約8割、国庫支出金が1億9370万円で約5・5割と続きます。
地方交付税が前年度と比べ約4・4割減少し、年々、歳入総額も減っています。繰越金などの増加により自主財源が増えるなど変化が見られましたが、依然、地方交付税など依存財源に頼っている現

▼一般会計《歳出》
適正な歳出を徹底
平成23年度一般会計の歳出総額は、前年度と比べ約2・2割減の約31億8709万円となりました。
歳出全体に占める割合で見ると、庁舎管理や防災、選挙、元気なまちづくり交付金、若者定住対策などに使った総務費が約7億2792万円（約22・8割）と一番大きく、続いて保健事業やごみ処理を行う日野町・江府町・日南町衛生施設管理組合負担金、日野病院への負担金などに使った衛生費が約5億6494万円（17・7割）という順です。
また、小中学校の運営や保小中一貫教育の推進、子育て支援室などの充実、人権教育などに使った教育費は約2億6159万円と、前年と比べ約27割増と取り組みの充実が図られた結果がうかがえます。
なお、町債の返済金である公債費は5億590万円で、昨年と比べ約8933万円減少しましたが、まだ高い割合を占めています。